

外部評価結果に係る対応方針(継続検討としていたもの)

外部評価年度	施策/政策統括官	項目	Check		Action	Check		Action	check	Action	
			内部評価	外部評価指摘事項	対応方針	未来創造会議	基本構想等審議会	評価年+1年度内部評価(対応状況)	対応結果	外部評価追加指摘事項	対応方針
平成26年度	05-04-01地域の実情に応じた公共交通体系の構築 都市整備部長	ア. 施策の成果が明確に定義されているか	行政、交通事業者、地域住民等の協働により地域の実情に応じた公共交通体系の構築が図られ、市民の足として重要な役割を果たしているバス路線の維持と路線バスの空白地帯の交通が確保されていること。	B. 概ね適切/一部見直しが必要	(1) 総合計画基本計画における施策の方針とほぼ同じ文章であるため、もう少し具体的に示したほうがよい。	(1) 総合計画に基づき施策を展開し、それに対する評価なので、方針を合わせているものであるが、今後、具体性について記述して参ります。	特になし	特になし	28年度から「(仮)北上市地域公共交通網形成計画」の策定に着手し、地域の実情に応じた公共交通体系を構築していくこととなりますので、計画策定後に、記述を変更します。	① 対応済	
		イ. 評価指標の設定は適切か	①地域住民を支える支線交通の路線数 ②地区の環境で、公共交通が利用しやすいと思う市民の割合	B. 概ね適切/一部見直しが必要	(3) 様々な情報を集めてデータに基づく分析ができそうなのだが、そこまでいくためにもう少し定量的な指標を充実したほうがよい。	(3) 指標については、全体の指標の見直しの時に設定し直します。	特になし	特になし	指標にコミュニティバス利用者数を追加しました。	① 対応済	
		ウ. 要因考察や課題の把握は適切か	【外部環境】①路線バスの縮小や廃止が進められていることにより、路線バスの空白地帯が増え、支線交通が必要な地域が増えた。②自治組織が事業実施主体となったことにより、支線交通(乗合タクシー)の仕組みが円滑に構築できた。【内部要因】地域住民を支える支線交通(乗合タクシー)については、支線交通運行事業費補助金の助成により地域での運営が維持されている。 【課題及び改善を要する事項】①路線バスの縮小や廃止が進められていることで、路線バス空白地帯が増える可能性が高い。②支線交通の運行体制を構築する際に、関係者(タクシー事業者、バス事業者)との協議がまとまらず、支線交通の開始が遅れることがある。③市としての公共交通施策の重要性が高まっているが、専門性のある人材が少ない。	B. 概ね適切/一部見直しが必要	(1) 要因考察、課題の把握ともに、地域別の実態分析が弱い。	(1) 現在の指標に対する要因考察なので、指標を見直すとともに、要因考察や課題の把握の方法を工夫します。	特になし	特になし	指標にコミュニティバス利用者数を追加しましたので、次回の評価時に要因考察や課題の評価方法を工夫します。	① 対応済	
		オ. 総括意見			(1) ヒアリング時に口頭で説明されていた事項(地域別の課題や展望)を内部評価シートに反映させたほうがよい。(2) 路線バスが廃止された場合の代替案の検討については評価されるものの、今後の北上市の公共交通体系を早急に検討すべき。	(1) 次回の評価時に検討します。(2) 廃止の可能性のある路線バスがあるので、それぞれ利用促進や路線の見直しを行っているところであり、全体の公共交通体系も合わせて見直します。	特になし	特になし	(1) 記載内容を見直しました。(2) 28年度から「(仮)北上市地域公共交通網形成計画」の策定に着手し、市全体の公共交通体系を見直します。	① 対応済	